

特集「2017年度研究会優秀賞受賞論文紹介」にあたって

上田 晴康
(株)富士通研究所

小林 一郎
(お茶の水女子大学)

加藤 恒昭
(東京大学)

人工知能学会には、2018年3月現在、第1種から第3種まで合わせて24の研究会が組織されています。この24研究会のおのおのが単独、他学会との連携、あるいは合同研究会で年間2～4回の研究会を開催しています(2017年度の開催総数は54回、一般発表の論文数は502件)。また、一部の研究会は独自にセミナーやワークショップを開催しています。中でも、合同研究会は、全国大会と双璧をなす研究イベントとして、多くの研究会が参加し、2011年以降、毎年開催されています。実際、2017年11月24日(金)～25日(土)に慶應義塾大学矢上キャンパスで開催された合同研究会2017は、参加15研究会、発表件数99件(一般発表)、招待講演17件、企業展示24社、参加者数770名(合同研究会2016では814名)と大盛況でした。また、合同研究会2018は、2018年11月22日(木)～23日(金)に慶應義塾大学矢上キャンパスで、14の研究会が参加し、開催される予定です。

このようにアクティブに活動を行っている研究会活動に対して、本学会は、各研究会の年間発表件数の5%に相当する件数を目途に、毎年、研究会優秀賞受賞論文を選出しています。選出のプロセスは、各研究会から候補選出を行った後、その候補に対して、研究会運営委員会、および理事会が、選考過程の透明性や内容の妥当性を審

議、受賞を決定する形になっており、時間をかけ、厳正な審査を行っています。

また、研究会運営委員会では、研究会優秀賞を授与するだけでなく、これを研究会活動の発展により貢献できるよう、以下の二つの目的のもと、2017年(2016年度, Vol. 33, No. 1, pp. 55-85)より本誌特集として研究会優秀賞受賞論文紹介を企画しています。

1. 優秀賞受賞者を奨励し、その研究内容を広く知ってもらおう。
2. その年度の「研究会の顔」ともいえる優秀賞受賞論文を通じて研究会の活動内容を世に広く知ってもらう。

表1に示すように2018年は、前年度にあたる2017年4月～2018年3月の発表から13件の研究会優秀賞を決定致しました。いずれも、その年の各研究会を代表する論文となっていますので、この特集でご興味をもたれた方は、AI書庫や各研究会のホームページなどで論文をダウンロードいただき、ご一読いただければと存じます。また、今後の研究会開催についても本学会や各研究会のホームページに情報が載っています。さらに、メーリングリストでも適宜、情報をお送りしておりますので、ご参加、およびご発表をご検討いただければと存じます。

表1 2017年度研究会優秀賞受賞論文一覧

研究会名	タイトル	著者
FPAI	文脈自由文法による構文木の集合を表現する決定グラフの高速な構築	網井ほか
	テンソルのルジャンドル分解	杉山ほか
KBS	負の相関ルールマイニングの効率化のための飽和アイテム集合からの極小生成子の高速抽出	谷島ほか
SLUD	潜在キャラクタモデルによるリアルタイム対話エンゲージメント推定	井上ほか
	〈言葉足らずな発話〉が備える共創的インタラクションを生み出す余地について	西脇ほか
ALST	CSCLシステムの開発・運用・分析を支援する統合プラットフォーム	杉本ほか
Challenge	DNN Based Pitch Estimation Using Microphone Array	Evenほか
FIN	日銀総裁会見の表情解析に基づく感情値の計測と金融政策変更との関係	水門ほか
KST	エンドユーザ開発とIoT活用による現場作業活動実績の可視化	古川
SWO	半構造情報資源を用いたWikipediaオントロジーの構築	川上ほか
DOCMAS	遊園地における待ち時間を考慮したアトラクション選択行動モデルとそのパラメータ推定手法	清水ほか
BI	歩行者エージェントの視野を考慮した空港などの大型施設におけるサインシステムの評価	島田ほか
AGI	符号分割多重法により勾配推定を行う機械学習アルゴリズムの提案	佐藤ほか